



教育の情報化と 学習に困難のある子ども

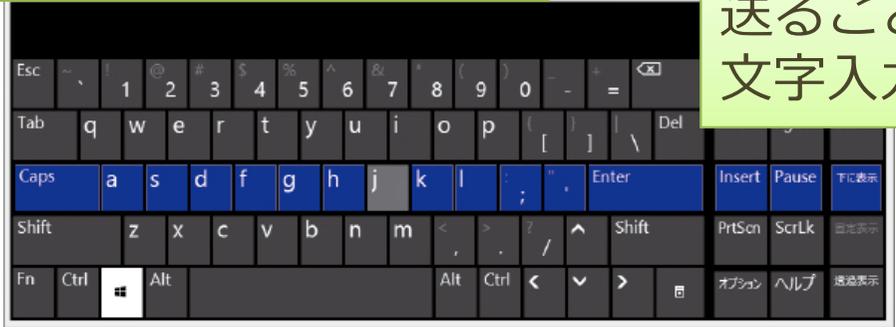
日本マイクロソフト株式会社 大島 友子

タブレット/PCが使いにくい方を助ける基本的機能

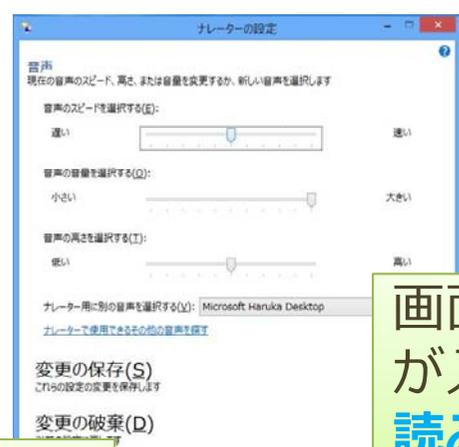
画面の一部や全体を
拡大・縮小・移動



両手を使えなかったり
震えがある場合を補佐



一つの信号を
送ることで
文字入力



画面の情報や自分
が入力した文字を
読み上げ

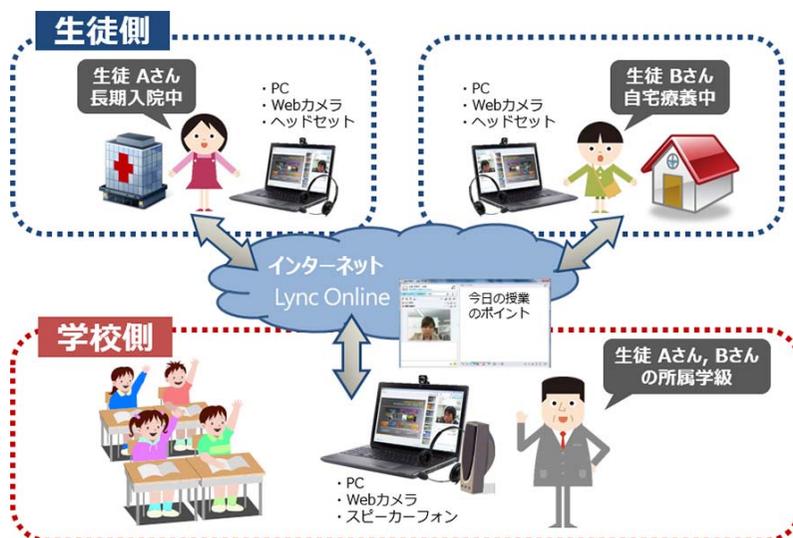
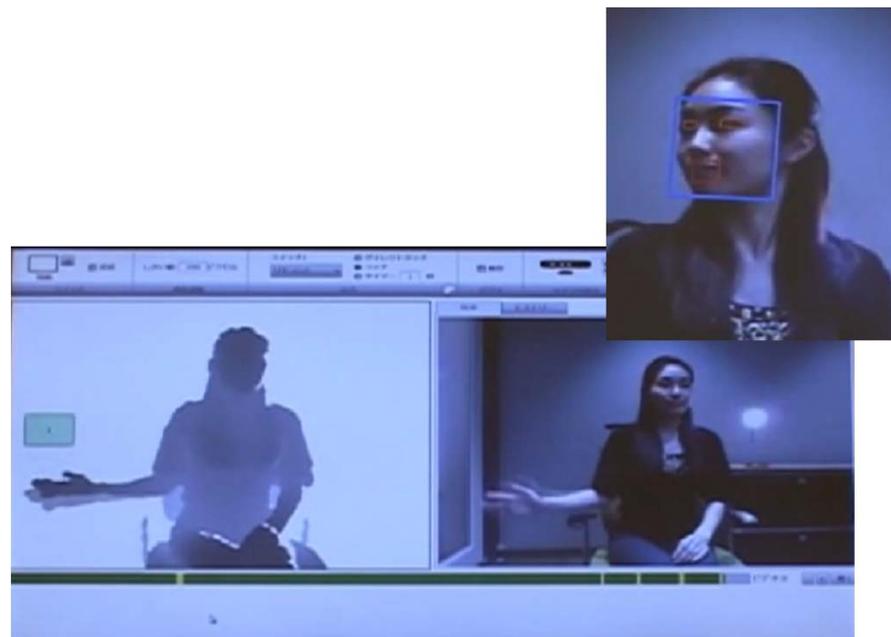


キーボードのテ
ンキーで**マウス
カーソルを移動**

身体的な困難のある子どものテクノロジーの活用

どこでもスイッチ OAK

- わずかな動きを捉えて意思表示を支援
- 「Microsoft KINECTセンサー」で検出し、PCや家電の操作などを行う
- 東京大学先端科学技術研究センターと日本マイクロソフトの共同開発



Lyncを使った遠隔授業

- 病気やけがなどで登校が困難だったり、院内学級に通学する児童生徒
- メッセージや音声で質問、画面の共有、録画も容易
- 教育機関様に無償で提供
- Web カメラやマイク、スピーカー等で簡単に構築

通常学級に通学する発達障碍と思われる子ども

全国の小中学生の6.5%

学習面で著しい
困難を示す

4.5%

「読む」または「書く」
に著しい困難を示す

2.4%

「書くこと」が苦手

- 鉛筆で書くことが難しくても、キーボードで入力することで考えをあらわせる場合も
- 音声認識や文字認識機能が有効なケースも

行動面で著しい
困難を示す

3.6%

「読むこと」が苦手

- 目で追って読むと時間がかかり理解が難しくても、聞くことで理解が進む場合も
- デジタル教科書教材で学び、デジタル化されたテストを受けることで、テストの点数がアップ

対人関係やこだわり
等の問題を著しく
示す

1.1%

「集中すること」が苦手

- アニメーションで注意をひく
- 間違いやすいところを目立たせる・繰り返す

文部科学省 2012年「通常の学級に在籍する発達障碍の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」より
知的発達に遅れはないものの学習面や行動面の各領域で著しい困難を示すと担任教師が回答した児童生徒の割合